

緩和ケア普及啓発に関する活動報告書

提出日 平成 26 年 6 月 27 日

緩和ケア普及啓発活動についての報告

実施団体	
特定非営利活動法人 日本緩和医療学会 厚生労働省委託事業 緩和ケア普及啓発事業	
企画名	
第 19 回日本緩和医療学会学術大会 委員会企画 5 委託事業委員会企画 緩和ケア普及啓発事業(オレンジバルーンプロジェクト) 活動報告と今後の展開	
事前告知、募集の方法について(ポスター、チラシの配布など)	
学術大会のプログラムに掲載 公式ホームページおよび Facebook にて事前告知 学術大会中、チラシを配布	
当日の実施内容について	
日時(期間)	2014 年 6 月 21 日(土) 15:45~17:15
実施場所	神戸国際展示場 神戸国際展示場 2 号館 3 階
参加人数	約 8200 名(学術大会全体の入場者数)
具体的な実施内容:	
<p>I. 「診断時からの緩和ケア」をいかに提供していくか?~関西シンポジウムから~ (淀川キリスト教病院 ホスピス・こどもホスピス病院ホスピス科:池永 昌之先生)</p> <p>II. 早期からの緩和ケアとがん患者・家族の意思決定支援 (国家公務員共済組合連合会浜の町病院 緩和医療内科:永山 淳先生)</p> <p>III. かんわケア・カフェ (株式会社中央薬局:堀籠 淳之先生)</p> <p>IV. 診断時からの緩和ケアを提供するには? (富士赤十字病院呼吸器外科:小林 孝一郎先生)</p> <p>V. 地域イベント関連企画 in 中・四国「診断時からの緩和ケアに向けて~わたしにできる取り組みを考える~」 (総合病院山口赤十字病院 医療社会事業部:橘 直子先生)</p> <p>VI. がんと診断された時から始める緩和ケア (総合病院 聖隷浜松病院:塩川 満先生)</p>	

過去2年間の当事業の活動報告が座長の濱卓至先生（大阪府立成人病センター 心療・緩和科/緩和ケアチーム）から行われた後、昨年行った地域イベント関連企画の開催報告を各担当委員から行った。後半はフロアからの意見を交えながら、今後の展開についてディスカッションをした。

## 効果について（アンケートの結果など）

『緩和ケアの普及啓発について、自由にご意見をお書きください』とのアンケートを作成し23件の回答を得ることができた。参加者71名。

第19回日本緩和医療学会学術大会 委員会企画5 アンケート集計（抜粋）

### ◆設問

1. 緩和ケアの普及啓発について、自由にご意見をお書きください。（職種）

### ◆回答

- がん診療拠点病院ではない病院へも何らかの形で働きかける必要があると思います。（医師）
- 地域によってやり方が違い、それぞれの良い所をあわせてみては、と感じた。また、参加数や職種の割合も異なっており、地区リーダーにより、バラつきがあるのかと感じた。（薬剤師）
- 拠点病院から離れた地域では研修会に参加する機会が得られにくい。遠方地域のスタッフへの啓発をどうすべきか。悩ましい。（薬剤師）
- 一般の人への緩和ケア普及啓発には、アイキャッチになるシンボルが重要であり、その点で「オレンジバルーン」は大変良いシンボルになるので、そのグッズも普及啓発の始めの一步として有意義と思う。（医師）
- 緩和ケアのみで伝えてゆくのではなく、がんパスにリンクした形で、緩和ケアを伝えてゆくのはどうか？地域連携緩和パスの普及を通して一般の医師と緩和ケアを広めてゆくのは？（医師）
- 緩和ケアの普及啓発が医療者にも市民にも難しいという事が良く解りました。市民への啓発としては、市民に近い所でのアクセスはどうでしょうか。（健康相談のように地域の福祉大会（祭り）へのブース出展など）また、医師会の勉強会へのアクセスや、医師会で地域の講座を開いている先生方から地域住民へ向けて話をしてもらう、なども良いかなと思いました。（医師）
- 「がんと診断された時からの緩和ケア」をまず医療従事者に理解して頂くことが大切かと思われまます。特に、がん治療医への理解が重要と思われ、がん治療学会や臨床腫瘍学会、乳がん学会など関連学会において情報発信（提供）は、いかがでしょうか？（薬剤師）
- 「がんと診断された時からの緩和ケア」を行うにあたっての『5つのアクション』『緩和ケア』の市民向けの説明文作成、など活発な啓発活動を施行されており、活動内容としてはかなり充実したもものになっていると思います。すばらしい活動と思い、感銘しました。（医師）
- 在宅療養を視野に入れたケアも啓発が必要と思います。病院での治療が複雑で、帰りたくても帰れない患者をよく経験します。

## その他報告

●当日の写真

